

Weekly Report

2025-26



よいことのために手を取りあおう

創立 / 1965年5月22日
 例会日 / 毎週木曜日 PM12:30～
 会場 / 江南商工会館1F 大ホール
 江南市古知野町小金112
 0587-54-8132

事務局 / 江南商工会館 別館1F
 TEL / 0587-55-6554
 FAX / 0587-59-7720
 URL / <https://www.kounan-rc.com/>
 Mail / kounanrc@beach.ocn.ne.jp
 会長 / 沢田 昌久 幹事 / 尾関 育良 会報委員長 / 野々垣 裕司

2026年(令和8年) 4月16日(木) 晴れ 第2868回(当年度第28回)例会

司会 SAA 川崎 良一君
 ロータリーソング斉唱 「それでこそロータリー」
 四つのテスト斉唱 富永 典夫君
 ー 言行はこれに照らしてから ー
 1. 真実かどうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるかどうか

分が含まれているそうです。
 1年後の令和6年2月に殺人容疑で、父親の姉が逮捕されています。ちょうど私にも7歳になる女の子の孫がいるだけに、最近話題の京都の小学6年生の男子殺害事件と絡めて、どうすればこうした事件を減らすことができるのかどうかと、考えさせられるニュースでした。

会長挨拶

会長 沢田 昌久君



こんにちは。ロータリアンの中にも若い方は、自分の子供さん、また高齢の方はお孫さんをお持ちの方がおられるかと思えます。
 特に、自分の孫は目に入れても痛くないと言われるほど、かわいくてしょうがないと自らを振り返っても感じます。
 しかし最近では、自分の子供を虐待やひどいときには殺めてしまう家族まで出てきています。高齢者や障害者にも虐待をする、なぜそんなことができるのだろうかとその関連したニュースを、SNSを通じて最近よく目にするようになってきました。
 昔から、このような事件はあったのでしょうか。それとも気づかずにいたのかは分かりませんが、残念で仕方ありません。
 令和5年3月にこんな事件がありました。救急車で当時4歳の女の子が救急搬送されました。すでに死亡しており、身体からは大量の向精神薬と車の不凍液が検出されました。
 不凍液は、毒性があり、腎臓の機能を低下させる成

委嘱状伝達



地区諮問委員会 委員
地区RDF実行委員会 アドバイザー 伊藤 靖祐君



米山奨学生カウンセラー 田中 健君

幹事報告 -別紙-

幹事 尾関 育良君

祝福

委員 古田 政一君

出席報告

副委員長 松野 拓也君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
56名	43名	13名	79.63%

ニコボックス

副委員長 松野 拓也君

○次年度 会長、次年度 各常任委員長、及び入会3年未満会員の皆様、本日のクラブリーダーシップ・ラーニング・セミナー報告、よろしくお祈いします。
沢田 昌久、中村 耕司、尾関 育良、佐藤 弘夫 各君

○先日のマスターズ会、同伴者の堀尾君、永井君、尾関君、大変お世話になりました。ありがとうございました。

森 弘好君

○先日のゴルフコンペ、一日中楽しく過ごせたことに感謝して。家内の健康を祈念し、誕生日を祝って。
倉知 正憲君

○マスターズ会にて、運だけで優勝させて頂きました。次回は、発表できるスコアで優勝を目指します。
三輪 慎一郎君

○大口屋が東海テレビスイッチと日経新聞の土曜版で紹介されました。

伊藤 かね子君

○本日はラーニングセミナーの報告をさせて頂きます。よろしくお祈いします。

菊 貴世君

○4月16日(木)クラブリーダーシップ・ラーニング・セミナー報告 次年度会長 近藤道磨君、常任委員長 中村 耕司君、野々垣 裕司君、林 庸介君、入会3年未満 菊 貴世君、宜しくお祈い致します。
松岡 一成、古田 嘉旦、杉浦 賢二、伊藤 靖祐、長瀬 晴義、南村 朋幸、木本 寛、永田 広光、岩田 進市、松野 拓也

各君

卓話



次年度会長 近藤 道磨君

4月5日(日)に2026-2027年度クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナーが名古屋マリオットアソシアホテルにて開催されました。江南からは20名が出席し、ラーニングをしてきました。私からは本会議や特別講演について報告します。

2026-2027年度国際ロータリー会長はナイジェリアの「オンラインカ・ハキーム・ババロア氏」です。RI会長メッセージは「CREATE LASTING IMPACT」 「持続可能な インパクトを 生み出そう」です。ガバナーは国府谷俊盛氏。名古屋東ロータリークラブ所属で職業は幼稚園を営まされています。地区方針は「元気で なかよく 楽しく そして高潔に」サブテーマは「新たな視点からの挑戦」を謳われ、説明をされました。

国際大会は当初予定されていたドバイが変更になり、スペイン・バルセロナで2027年6月27日～30日に開催されます。

地区大会は今年11月14日(土)にエスパシオ・ナゴヤキャッスルにおいて1日のみの開催となります。一昨年まで行われていたロータリーフードフェスタは26-27年度に復活し、ロータリー・ドネーション・フェスタ(RDF)と名称を変えて、来年5月8日(土)・9日(日)にエディオン久屋広場・エンゼル広場で開催されます。

特別講演の講師は、高崎経済大学名誉教授(高崎RC)の田中久夫氏で、クラブ会長の時1年間で51人もの会員を入会させた方です。「そうだったのか ロータリークラブ」というタイトルで会員増強についてお話を聴きました。

特に印象に残ったのは、これから入会したいと思っている人達に「選ばれるクラブ」、「会員が誇りを持つクラブ」になることを強調されたことです。また、「マズローの法則」を示されて、人の欲求は5段階あり、最初は「生理的欲求」次に「安全の欲求」があり、ここまで満たされると欲求が更に大きくなり「社会的欲求」「承認欲求」を求めようになるとのことです。会員増強にはクラブの良質な居心地が必要で、この「社会的欲求」と「承認欲求」を整えていくことで増強が自然にできるようになると示されました。新会員の「社会的欲求」に対して、現会員がその人に対して寛容で温かくできているか。「承認欲求」には公平に扱って、思いやりがあって、皆からの認知ができているか。そうするとその人はこのクラブに居て良かったという帰属意識、Belongingが生まれ、クラブが魅力的になります。田中氏は「会員」という言葉を「仲間」という言葉に置き換えて人集めをして、仲間、会員を増やしているそうです。

面白い表現で、ロータリアンを「朗多利安」と漢字で示し、【朗】明るく、皆から慕われている人。【多】多くの人に囲まれ、皆から信頼されている人。【利】周りの人に多くの利益をもたらす、皆を幸せにする人。【安】その人が居るだけで周囲が安心する懐の深い、愛情あふれる人と紹介されました。

また、ロータリアンはモノゴトを楽しめる人でありたいと、3つの条件を示されました。①情熱的、前向きであること。②楽天的、明るい人であること。③自己修練、頑張れる人。

そのためには、先人のすぐれた経験則に学ぶこと、人生のあらゆる経験をなめ尽くすことが大切だそうです。

このようなロータリアンになれば、クラブが居心地

良く魅力的になり、入会希望者から「選ばれるクラブ」になるでしょうから、是非とも研鑽を積みたいと思いました。



次年度 クラブ管理運営常任委員長 中村 耕司君

第2分科会の報告致します。

●各クラブの思いを一つに ~ロータリードネーションフェスタ RDF 吉川公章パストガバナーより
ポリオ根絶活動の成果と今後の目標についてご報告いたします。

ポリオはこれまでに99.9%削減され、現在はパキスタンとアフガニスタンの2カ国にまで減少しました。今年パキスタンで1名です。しかし、残りの0.01%をなくさなければ、再び拡大するリスクがあります。この成果は自然に達成されたものではなく、ロータリーをはじめとする多くの方々の継続的な活動によるものです。現在では、わずか約24円のワクチンで1人の子どもの命を守ることができます。

今年度は、84クラブが主体的に活動に参加し、21万8000ドルの募金を達成するなど、大きな成果を上げることができました。これは各クラブの協力の賜物です。

来年開催のロータリー・ドネーション・フェスタ(RDF)はポリオ撲滅が最優先事項ですが、日本の小中学生の自殺者は過去最高の529人になってしまっています。疲弊する日本の子どもたちのための支援にも取り組みます。

●Missing JAPAN PORTAL SITE ~知らなかったでは損します~ 伊藤靖祐パストガバナーより
ロータリー行動計画の「実践」についてお話しさせていただきます。

まず率直に申し上げます。

行動計画-「聞いたことはあるが、実際には使えていない」

そう感じている方も多いのではないのでしょうか。

昨年度は概要の説明が中心でした。

しかし、理解しているだけでは意味がありません。

天切なのは、「実際に行動に移すこと」です。

そのために、現在、日本の地域リーダーによって、実践に役立つポータルサイトが整備されています。従来の情報は多く、分かりづらい部分もありましたが、今は要点が整理され、すぐに活用できる環境が整っています。

ぜひ一度、実際に触れてみていただきたいと思えます。

<https://www.japanrotary.club/home>

そして、最も重要なキーワードが「継続性」です。ロータリーは単年度で終わる活動ではありません。会長が変わるたびに方針が変わってしまうと、積み上げができません。

だからこそ、行動計画では「3年間の継続」を前提としています。

この3年間を一つの流れとして捉え、確実に成果へとつなげていく。

これが、ロータリーの新しい進め方です。

さらに、行動計画には4つの優先事項があります。

「インパクトをもたらす」

「基盤を広げる」

「積極的な関わりを促す」

「適応力を高める」

この4つを軸に、クラブの戦略を明確にし、活動・会員増強・交流を一体として進めていくことが求められています。

最後に。

行動計画は、決して難しいものではありません。

まずは、自クラブの現状を知ること。

そして、目標を定め、続けること。

この「続けること」こそが、最大の成果につながります。

ぜひ皆さんと共に、実践へと一歩踏み出していきたいと思います。

●「ロータリーの危機管理について」 中山信義 次期危機管理委員長より

ハラスメント防止と対応手続きについてご報告いたします。

まず、ロータリーでは青少年およびすべての参加者の安全を最優先としており、身体的・性的・心理的なあらゆる虐待やハラスメントに対して「ゼロトランス(不寛容ふかんよう)」、すなわち一切許容しない方針を採っています。

ハラスメントとは、年齢・性別・人種・宗教・社会的立場などに基づき、相手を傷つける言動や行為を指します。具体的には、侮辱的な発言、威圧的な態度、不適切な身体接触、性的な言動などが含まれます。

次に対応手続きについてです。クラブ内で発生した事案は、まず理事会が対応し、原則1か月以内に解決を図ります。解決が困難な場合は地区へ報告され、さらに重大な案件については国際ロータリーへの報告が求められます。特に青少年に関わる事案は、72時間以内の報告義務があります。

また重要なのは、被害を受けた方の意向を尊重しつつ、適切な選択肢を提示することです。何もしないことは再発リスクを高めるため、相談・報告・調査といった対応の道筋を丁寧に説明する必要があります。

さらに、ハラスメントのない環境づくりは全会員の責務です。問題を見過ごさず、早期に声を上げ、組織として適切に対応することが求められます。

最後に、各クラブにおかれましても、明確な方針と対応体制の整備をお願いいたします。

●「RLIとファシリテーターについて」 藤井晴生 次期地区ラーニング副委員長より

RLI(ロータリー・リーダーシップ研修会)についてご報告いたします。

近年、ロータリーにおいては、従来の「教わるトレーニング型」から、「自ら気づくトレーニング型」へ

と大きく変化しています。
これまでのように経験豊富な方の話を聞くだけでなく、会員一人ひとりが主体的に考え、対話を通じて学ぶことが求められています。

RLIは1992年にアメリカで始まり、現在では世界200以上の地区で導入されているリーダーシップ育成プログラムです。

その目的は、クラブをより活性化し、魅力ある組織へと成長させることにあります。

特徴的なのは、講義中心ではなく、参加者同士の対話が中心である点です。

ファシリテーターは教える存在ではなく、参加者の意見や気づきを引き出す役割を担います。

プログラムは3つのパートで構成されています。
パート1では「ロータリアンとしての自分」を見つめ直し、

パート2では「クラブ運営の課題や改善」について議論し、

パート3では「クラブの未来とリーダーシップ」を考えます。

これらの対話を通じて、成功事例だけでなく失敗事例も共有され、実践的な気づきが得られる点が大きな特徴です。

RLIは単なる研修ではなく、仲間とともに学び、クラブの未来を考える場です。

この学びを各クラブに持ち帰ることで、例会運営や奉仕活動の質の向上につながることを期待されます。

●「会員増強について」 木所壮太 次期会員増強委員長より

2026.3 衛星クラブとして 犬山白帝RSCが立ち上げしました。

新会員から選ばれるクラブになつてますか？
周りから見た自クラブの「格」とは？自問してみてください。

例えば名門ゴルフ場は 誰でもいいから会員にしていないですね。

メンバーが備えるべき品格として、シニア会員のトクセツ「老害」の具体的特徴

i 人の話を聞かない(耳が遠いのか?)

ii 話が長い(説教したがる。自分の話ばかり傾聴に値すると思っている)

iii 自分の価値観(しかも時代遅れの)を押し付ける

iv 年上というだけで威張る(怒りっぽい)

v 自分が間違っていると気づいても絶対に謝らない

「郎多利安」
郎：その人は、とても明るい人で、皆から慕われている人

多：その人は、多くの友人に囲まれ、皆から信頼されている人

利：その人は、周りの人に多くの利益をもたらす、皆を幸せにする人

安：その人が居るだけで周囲が安心する懐が深い、愛情溢れる人

キレイな花を咲かせる3要素として
迎える土壌(クラブの文化)⇒良質な居心地

蒔きたい種(新会員の多様性)⇒素直さと楽天性
注がれる水(現会員の備え)⇒寛容で公平な気持ち

クラブの良質な居心地(会員増強・維持の絶対法則)
社会的欲求 × 承認欲求 = 仲間増強
寛容・ 公平・

温かい配慮 思いやり +B(Belonging)
皆からの認知 「帰属意識」
クラブ管理常任委員会では、例会運営委員会、親睦委員会と連携して活動してまいりますが、次年度はこのBelonging「帰属意識」を感じられる運用に取り組もうと考えています。
至会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



次年度 公共イメージ向上常任委員長
野々垣 裕司君

次年度公共イメージ向上常任委員長を拝命しました野々垣でございます。

4月5日のクラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー報告をいたします。

第3分科会では公共イメージ向上についてテーマは「ロータリーの公共イメージの目的を考えよう」でした。

フリートーク、ロータリーの公共イメージ向上について、MyROTARYの登録と活用、ロータリーの友についてと4つのプログラムがありました。

最初に「ロータリーの公共イメージ向上について思うこと」「ロータリーが公共イメージを向上させる必要性」についてグループでのフリートークとなりました。

現在会報委員長です。昨年この分科会に参加しておりますが、今年に最初にフリートークとなったため、現在の参加者の率直な内容で意見交換することができました。

公共イメージ向上の、公共イメージは「頭に浮かぶ独自のイメージ」、向上は「それを確立していくためのたゆまぬ努力」です。その必要性・目的としては、多くの人に認知されること、参加者の基盤を広げること、ビジョンの実現に近づくためです。

そういった好循環で協力者や会員が増やすこととなります。また会員一人ひとりが認識して行動することが大切です。

外部の人にロータリーは何？ライオンズとの違いは？何の役に立っているのか？こんな質問があったらどうしますか。日頃積極的にクラブ活動に参加していないと直ぐに答えられないかもしれません。

より認知してもらうための方法として、テレビ新聞雑誌、ウェブサイト、SNS、口頭等あります。それぞれメリットデメリットがあります。

ブランディングの一つとして、正しいロータリーロゴがあります。正しい利用方法が定められています。

MyROTARY登録者ですが、3月末4750人中2828人登録で59.54%でした。当クラブでは100%達成し

たものの、新入会員の登録が追いつかないことがあります。

MyROTARYでは世界中のクラブ、地区、会員の情報を得たりすることが出来ます。ロータリーロゴの入手、卓話や原稿作成で利用可能なコンテンツがあり、有効な利用ができます。

ロータリーの友については地区代表池森由幸様から説明がありました。9月4日のクラブフォーラム卓話にて話された事は同じなのですが、時間的な事もありますので短縮版となりました。

将来的に行う事ばかりではありませんが、当クラブにおいて優先的に行う事を吟味し、以後継続的に推進できるようにしたいと思います。それを踏まえてクラブフォーラムの卓話において説明したいと思います。



次年度 奉仕プロジェクト常任委員長 林 庸介君

次年度奉仕プロジェクト常任委員長、職業奉仕委員長の林です。私からは、第5分科会(社会奉仕・職業奉仕)について報告いたします。

次年度のテーマは『新たな視点で、次への挑戦~四つのテストと超我の奉仕の実現~』で、地区の次期社会奉仕委員長より発信がありました。社会奉仕とはロータリーの根幹であり、各奉仕活動について、四つテストに照らし合わせながら実践していただきたいとのことでした。また、クラブの奉仕活動について積極的な発信をし、他クラブの活動の情報共有も図って欲しいとのことでした。奉仕プロジェクト常任委員会としては、クラブ内外への情報発信と、各委員会のサポートに務めて参りたいと考えております。

続いて、社会奉仕について、社会奉仕部門、環境保全部門、RCC部門それぞれの担当副委員長より、発表がありました。

社会奉仕担当の副委員長からは、ロータリーの7つの重点分野の指針に沿って、地域社会のニーズに応え、地域の人々の生活の質が向上するような奉仕活動を実践して欲しいとのことでした。当クラブの次年度地区補助金事業については、その目的を共有しながら、事業を進めて参りたいと思います。

続いて環境保全担当の、片平次期副委員長からは、地区の各クラブが行っている環境保全活動の紹介と、環境保全活動を通じて、青少年奉仕や国際奉仕に繋がるような、ロータリークラブだからこそできる環境保全活動を実現して欲しいとのことでした。当クラブでは、次年度も11月に「川と海のクリーン

大作戦」への参加を予定しておりますが、どのようなことができるか、各委員会と連携しながら、実行して参りたいと思います。

RCC担当の副委員長からは、まずはRCCについて知って欲しいとのことでした。Rotary Community Corps(ロータリー地域共同体)とは、ロータリークラブが提唱する地域主体の奉仕団体で、ロータリーの外にある、もう一つの奉仕の力、パートナーとのことです。ロータリークラブはあくまで提唱、支援するだけで、下部組織ではないとのことです。当地区85クラブの内、15クラブが提唱しているとのことで、地域課題の多様化や会員の高齢化という課題に対応しつつ、持続可能な奉仕の仕組みとして、積極的にご検討くださいとのことでした。

続いて次期職業奉仕委員長、副委員長からは、四つのテストとご自身の会社の活動を照らし合わせた説明があり、職業奉仕例会については、「職業奉仕」について改めて考える機会となるよう、卓話形式も開催して欲しいとのことでした。

全体を通して、テーマの「新たな視点で…」を強調されていた印象を受けました。

次期奉仕プロジェクト常任委員会、職業奉仕委員会としましては、すぐに実践可能なことは実践し、将来的、長期的に実現を目指す事項についても、次々年度以降に繋がるような活動を心掛けたいと思います。以上で報告を終わります。



入会三年未満会員 菊 貴世君

私は1月入会の新入会員という立場で受講しましたが、今回の研修では、クラブが新会員候補者から「選ばれるクラブ」になるために何が必要かを、さまざまな視点から学ぶことができました。

研修では、クラブの品格や会長の役割、現会員が備えるべき姿勢、そしてクラブの居心地の大切さについて話がありました。特に印象に残ったのは、現会員を「水」、新会員を「種」、クラブの文化や居心地を「土」にたとえた内容です。会員増強は、ただ新しい人を迎えることではなく、今いる会員がどのような雰囲気をつくり、どのように新会員を受け入れていくかが重要だと感じました。

実際に新入会員として当クラブに入会して感じるのとは、とても居心地が良く、活動しやすいクラブだということです。皆さんが自然に声をかけてくださり、無理を求められることもなく、安心して参加できる雰囲気があります。長年活動されている方の存

在が重くなりすぎず、むしろ新入会員にとって動きやすく、参加しやすい空気があることは、このクラブの大きな魅力だと思います。今回の研修を通じて、当クラブの良さを改めて実感するとともに、こうした良い文化や居心地の良さこそが、会員増強やクラブの発展につながっていくのだと感じました。今後は新入会員の立場として、その良さを受け取るだけでなく、自分自身もクラブの雰囲気づくりに貢献していきたいと思っています。

点 鐘

会長 沢田 昌久君

本日の食事



4月14日(火) 犬山青紅葉例会 於 寂光院



4月16日(木) ワイン同好会 於 J`s Vendor



会報掲示板



My ROTARY

※ログインしてご覧ください。

(担当: 委員 伊藤 由香)